

栗原隆氏らによって2014年に対馬で採集された コメツキムシ類の分布記録

大平仁夫

〒444-3511 岡崎市舞木町狐山 6-4, 1-106

Some distributional notes on the elaterid-beetles from Tsushima Is., collected by Messrs. Kurihara in 2014

Hitoo OHIRA

2014年6月28日から7月4日の間に、栗原桂一と春子ご夫妻、ご子息の隆氏が対馬で採集されたコメツキムシの提供をいただいたので、ここに記録する。対馬からは Kishii (1961) が1959年7月21日から8月10日にかけてほぼ全域を調査し、37種を記録している。また、松尾(2004)はそれまでの記録をまとめて52種の目録を報告しており、この島の分布相の概要は判明しているが、ここでは記録が少ない種を含む11種を記録する。

本文を草するにあたり、貴重な資料の提供をいただいた栗原家の方々に心から御礼を申しあげる。また、本文中の個々の採集年と採集者の姓は、重複するので省略した。ここに記録した標本は筆者が保管している。

1. フタモンウバタマコメツキ *Cryptalaus larvatus pini* (Lewis, 1894)

暖地系のよく知られた種である。幼虫は針葉樹や広葉樹の朽ち木の樹皮下に入り、捕食性である。対馬からは三輪(1933)が最初に記録して以来、多くの記録が残されている。

標本：1♀, 上対馬町泉, 28-VI, 隆。

2. シロオビチビサビキコリ *Adelocera (Brachylacon) difficilis* (Lewis, 1894) (図1A)

暖地の照葉樹林に生息する種で、本州の岐阜県(岐阜市金華山)あたりから琉球列島に至る各地に分布、本州の東海地方以西では成虫で越冬個体も見出されているし、琉球列島の奄美大島から先島諸島では普通種で、成虫が冬期でも活動している。

標本：2exs., 上対馬町泉, 28-VI, 隆；1ex., 上県町仁田ダム, 29-VI, 隆；2exs., 美津島町小船城, 4-VII, 桂一；3exs., 美津島町玉調, 4-VII, 桂一。

3. キバネツヤハダコメツキ *Hemicrepidius (Pseudathous) terukoamus* Kishii, 1961

体長は9-10 mm, 体は黒色で光沢を有し、上翅は黄橙色～暗黄橙色。触角は黒色で肢は黄褐色。雄の体の両側は平行状で、雌の体は幅広い。対馬固有種とされている。雌雄の形態の概要は大平(1987)が報告している。

標本：1♂, 峰町佐賀, 27-VI, 隆；1♀, 上県町仁田ダム, 29-VI, 隆；1♂, 上対馬町泉, 30-VI, 桂一。

4. ツシマツヤハダコメツキ *Hemicrepidius (Heterathous) desertor taishu* Kishii, 2001 (図1D)

本州や九州に分布する原名亜種に比して小形で、上翅の青緑色の光沢が鮮明、肢は黄橙色である。対馬の峰町の御岳山 (alt. 490 m), 巖原町の有明山 (alt. 558 m), 佐須峠 (alt. 380 m) などから記録されており、山林に分布する種と思われる。

標本：1♂, 峰町差賀, 1-VII, 桂一。

5. クロツヤヒラタコメツキ *Calambus japonicus* (Fleutiaux, 1902) (図1E)

大平(1984)がクロツヤヒラタコメツキ (*C. mundulus*) として竜良山と有明山から記録している。また、鈴木(1989)は調査した巖原産の個体は表記種としており、このたび筆者が検した個体も表記種であった。

鈴木(1989)がタイプ標本を検するまでは、日本産は *C. mundulus* の学名を有する1種とされていたが、Fleutiaux(1902)が新種として記載した種はこれとは別種であることが判明、以降は *C. mundulus* はチャグロヒラタコメツキの和名で呼ばれることになった。前記の大平(1984)とこのたび検した個体は、表記の学名を有する種であったので、ここに訂正と補足説明をすることにした。

標本：1♂, 美津島町上見坂, 5-VII, 桂一。

6. ツシマチビマメコメツキ *Quasimus tsushimensis* Kishii, 1970 (図1B)

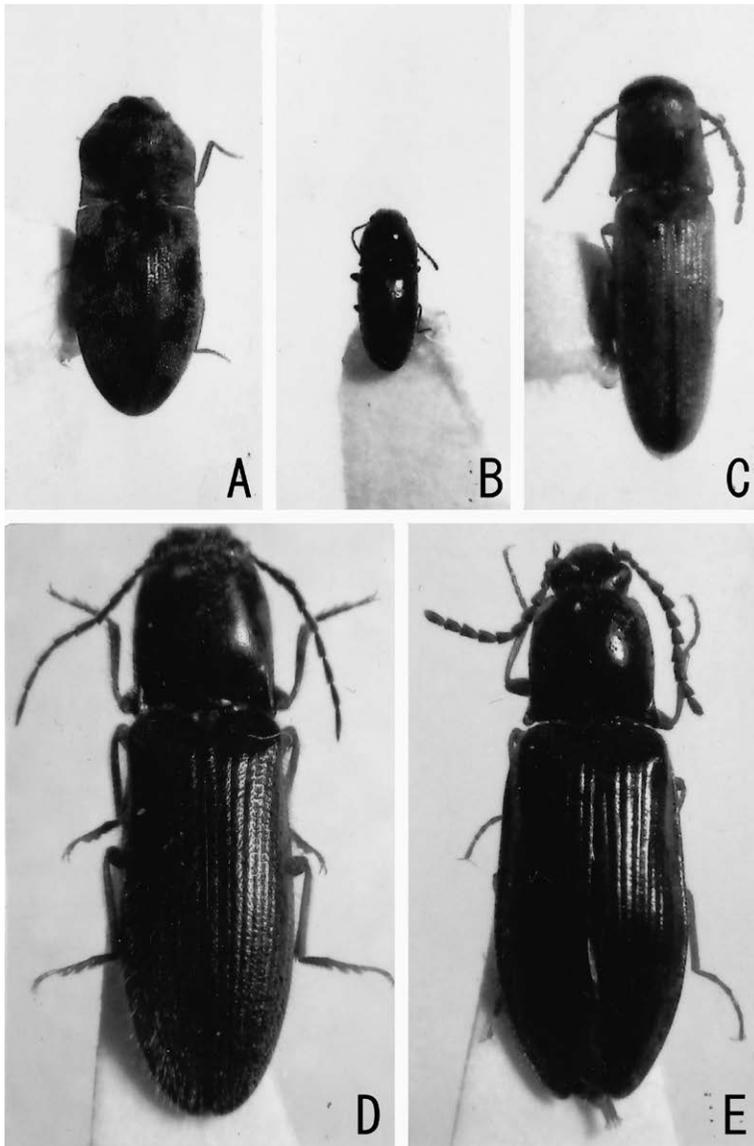


図1. 対馬産コムツキムシ類. A, シロオビチビサビキコリ (体長 4 mm) ; B, ツシママメコムツキ (2 mm) ; C, ヒメホソキコムツキ (♂, 4 mm) ; D, ツシマツヤハダコムツキ (♂, 11 mm) ; E, クロツヤヒラタコムツキ (♂, 7 mm) .

体長は 2 mm 内外、やや細長い楕円形状を呈し、黒色で光沢を有する。対馬固有種であるが、ここには類似種がいる。本種の同定は Kishii (1970) の原記載とそこで示された中肢基節腔後縁から後胸腹板に伸びる後胸腹板線の形態などから同定した。原記載以降ではこれが最初の記録である。

標本：6exs., 峰町差賀, 27-VI, 隆.

7. ヒメホソキコムツキ *Procraerus (Agaripenthes) helvolus* (Candèze, 1873) (図1C)

体長は 3.5-4.0 mm. 体は触角や肢も含めて黄橙色、頭部と前胸背板はやや濃色である。北海道から九州の各地の雑木山林に広く分布する種で、成

虫はノリウツギやシラキなどの花などで見出されるし、灯火にも飛来する。対馬からは Kishii (1961) が記録しているが、周辺の島嶼では隠岐や五島列島などにも分布している。

標本：6♂, 上対馬町茂木, 20-VI, 隆；5♂2♀, 上対馬町泉, 30-VI, 春江；1♂1♀, 美津町大船越, 4-VII, 桂一；3♂2♀, 美津町上見坂, 5-VII, 桂一.

8. ヒゲナガコムツキ *Mulsanteus junior junior* (Candèze, 1873)

北海道や東北地方からの分布記録は多くないが、関東地方から西部地域の本州や四国や九州では個体数も多い。成虫は主として夜間に活動し、灯火

や樹液や果実の熟したのにもよく集まる。対馬からは Kishii (1961) が最初に記録しており、その後にも若干の分布記録がある。幼虫は腐葉土中や腐朽の進んだ朽ち木や根株などに生息しているが、ときにシロアリの巣付近でも見かけるので、その巣からでるデブリスなども食しているようである。捕食性は有しないと思われる。

標本：1♀, 上対馬町泉, 28-VI, 隆; 1♀, 上対馬町子鹿, 29-VI, 隆。

9. ツシマクチプトコメツキ *Parasilesis musculus tsushimensis* Kishii, 1976

対馬産は体長 9 mm 内外で黒色～黒褐色。有明山産の成虫の形態は大平 (1992) が、他の地域の形態は大平 (1988) が報告している。本州産では上翅が褐色化した個体 (var. *flavipennis*) は主として中部地方から北海道にかけて分布しており、大平・山内 (1994) は青森県岩木山産 141 個体を調べ、その約 60% が褐色型であったことを記録している。対馬産の褐色型は見出されていない。

標本：3exs., 豊玉町曾, 26-VI, 隆; 2exs., 上県町仁田ダム, 29-VI, 隆; 2exs., 美津島町上見坂, 5-VII, 桂一。

10. クロツヤクシコメツキ *Melanotus (Melanotus) annosus* Candèze, 1865

各地の牧草地のような開けたところの林縁などでよく見られ、ときに小集団で発生している。対馬からは Kishii (1961) が最初に記録、その後大平・田楚 (2004) が豊玉町から記録しているが、ここでは個体数が少ない種と思われる。幼虫は土壌中に生息している。

標本：上対馬町泉, 27-VI, 隆。

11. オオクロクシコメツキ *Melanotus (Spheniscosomus) crebricollis restrictus* Candèze, 1865

各地の畑地などのある低地の雑木林などに見られる種で、原名亜種は中国から韓国に分布している。対馬からは Kishii (1961) が最初に記録、大平 (1984) が吉良山から、大平 (1996) が厳原町、鈴木 (2003) が上県町泉、大平・田楚 (2004) が豊玉町からの 5 例の記録があるが、どこでも単独個体で見出されることが多い。

引用文献

- Fleutiaux, E., 1902. Deuxene liste des Cicindelidae et Melasidae (Eucnemidae), recueillis au Japon par M. J. Harmaand. Bull. Mus. Hist. Nat. Paris: 356-361.
- Kishii, T., 1961. Elateridae of Is. Tsushima. The of Snappers Island (II). Bull. Heian High School, Kyoto, (5): 1-56, 11plates.
- Kishii, T., 1970. On the genus *Yukoana* and *Quasimus* from Japan. Some new forms of Elateridae in Japan (VII). Bull. Heian High School, Kyoto, (15): 1-28, 1mp.
- Kishii, T., 2001. Three new taxa of genus *Hemicrepidius* (Coleoptera: Elateridae) from West Japan. Some new forms of Elateridae in Japan (XXXIII). Ent. Rev. Japan, 56(2): 45-50.
- 松尾照男, 2004. 長崎県のコメツキムシ科甲虫類。こがねむし, (69): 6-48.
- 三輪勇四郎, 1933. 九州帝国大学昆虫学教室所蔵の叩頭虫標本 (1). MUSHI, 6(1): 25-31.
- 大平仁夫, 1984. 九州に産するコメツキムシ科の珍種 (19). 北九州の昆虫, 31(2): 103-106, 1pl.
- 大平仁夫, 1987. 日本産クロツヤハダコメツキとその近似種について。越佐昆虫同好会々報, (64): 3-19.
- 大平仁夫, 1996. 種子島・対馬のコメツキムシ若干種について。北九州の昆虫, 43(2): 77-80.
- 大平仁夫, 1988. 日本産クチプトコメツキ類若干種について。越佐昆虫同好会報, (77): 13-17.
- 大平仁夫, 1992. ツシマクチプトコメツキについて。北九州の昆虫, 39(1): 45-46, 1pl.
- 大平仁夫・山内 智, 1994. 岩木山のコメツキムシ類について (1). 青森県郷土調査研究年報, (18): 77-85.
- 大平仁夫・田楚 正, 2004. 対馬で採集されたコメツキムシについての補足説明。つねきばち, (3): 63-66.
- 鈴木 互, 1989. 日本地域におけるコメツキムシ科の分類学的覚書 (III). 甲虫ニュース, (83・84): 1-4.
- 鈴木 互, 2003. 対馬で採集されたコメツキムシ。甲虫ニュース, (143): 22-23.

(2014 年 10 月 15 日受領, 2014 年 12 月 9 日受理)

昆虫学研究器具は「志賀昆虫」へ

日本ではじめて出来たステンレス製有頭昆虫針 00, 0, 1, 2, 3, 4, 5, 6 号, 有頭ダブル針も出来ました。その他, 採集, 製作器具一切豊富に取り揃えております。

〒142-0051

東京都品川区平塚 2 丁目 5 番 8 号

郵便振替 00130-4-21129

電話 (03) 5858-6401 (ムシは一番)

FAX (03) 3784-6464

(カタログ贈呈) (株) 志賀昆虫普及社

◇学会の発行物・バックナンバーの販売委託先◇

昆虫文献 六本脚

〒102-0075 東京都千代田区三番町 24-3

三番町 MY ビル 3 階

TEL: 03-6825-1164

FAX: 03-5213-1600

E-mail: roppon-ashi@kawamo.co.jp

URL: <http://kawamo.co.jp/roppon-ashi/>